



菅生学園初等学校だより

2021年度3月号
校長室だより

自浄其意（じじょうごい）

しちぶつうかいげ
七仏通戒偈より

新年が明けたのがつい昨日のようです。早や3月を迎え、暖かな春の陽ざしが待ち遠しい頃となりました。先月に続き、コロナウィルスの猛威は終息からは程遠い状況です。

巷ではウクライナにロシアが侵攻する事態となり不安が重なる今日この頃です。本稿を執筆中の2月末時点では、ロシアにはウクライナ全土を制圧する意図が感じられ、市民にも被害が出ていると報道されています。ロシアのプーチン大統領の発言や行動は驚きです。国連の常任理事国でありながら、躊躇なく国家の主権や領土を踏みにじり、力による秩序の変更も厭わないという姿勢です。帝政ロシアの復活でも目論んでいるのでしょうか。彼の語る「ロシアの大義名分」は理解不能です。第二次大戦であれだけの犠牲を払った人類が作った国連をもないがしろにしているとしか感じられません。またも人類は同じ過ちをおかそうとしているのかと残念に感じます。

特にプーチン大統領にお伝えしたい言葉が「自浄其意」です。「自分の心をきれいにせよ」といった意味になりますか。この言葉は、禅宗では日常読誦する「七仏通戒偈」という短いお経の中にあります。「七仏」とは、お釈迦様出現以前の六仏にお釈迦様を加えた「七人の仏さま」のことで、これらの仏さまを通じて施された変わることがない戒めの教えが「七仏通戒偈」です。その内容は一見、当たり前的事ではないかと感じてしまいます。しかし、何事もそうですが言葉としての理解や内容についての理解はできても実践となると難しいと感じる場面は多々あります。



この教えにまつわる次のような有名な話があります。唐中期の漢詩人の白樂天が、讒言によって官職から追放され、故郷への帰途、道林和尚を尋ねた時のお話です。

白樂天 「和尚さん、仏法の教えをお示してください」

道林和尚 「諸悪莫作・衆善奉行・自浄其意・是諸仏教」

(あらゆる悪をなさず、もろもろの善を実行しみずからその心を清らかにすること、これこそ諸仏の教えである)

白樂天 「そんなことは三歳の童子でも知っています、もっと高い深い教えを示してください」

道林和尚 「三歳の童子でも知っているが、八十の老翁も行うことがなかなかできないのです……」

この、道林和尚の厳しい自己凝視に平伏した白樂天は、この縁で求道者になったそうです。

我々凡人は、自分の実力以上に虚勢をはり、名声や財を求める傾向にあります。また、原因を自分ではなく、周囲に見つきたいと考えがちです。

今回のウクライナ問題におけるプーチン大統領の発言や行動は、まさに凡人のプロトタイプ。頭ではおかしい論理であることはわかっているが、それを正せない。客観的なもう一人の自分をドローンで持ち上げて上空から自らの姿を眺めてみるとそこにはどんな自分が見えるのか・・・

一刻も早い解決を望みたいものです。

Down with covid19!